

## 令和4年度津山市地域創生推進会議（社会環境分科会）で出された意見に対する回答

番号	主な意見	担当課	R4取組内容とその成果
1	<p>・観光客に関して、総合戦略の50ページに観光客を呼び込むプランがあるが、長く故郷を離れていて、気になって帰ってきたいという時に、そういう人向けのツアーとか、小さなニーズに答えたツアーの企画とか、そのような事業をやっておられますか。</p> <p>・つやま珈琲倶楽部について、市外におられる方ばかりではなく、こちらに帰ってみて、こんな感じだったみたいなのと双方向の情報共有とかできるのも、面白いかなと思った。この辺はどうなのか教えてもらえますでしょうか。</p>	観光振興課 秘書広報室	<p>【観光振興課】</p> <p>・津山市では、伝統工芸体験やガイド付き城下町散策ツアーなど、長く故郷を離れた方にも楽しんでいただける多数の体験プログラムを用意しており、津山市観光協会のHPでは専用の紹介ページを設けております。また、津山市観光協会HPでは、津山市観光のモデルコースもいくつか紹介しており、津山市周遊の参考としていただければと思います。</p> <p>【秘書広報室】</p> <p>・つやま珈琲倶楽部につきましては、市外在住で、津山を応援する人に会員になっていただき、津山の魅力をSNSで発信、情報の提供、アンケート調査などへの協力をいただいております。現在2,500人程度の会員がおられます。</p> <p>つやま珈琲倶楽部ホームページ内のメニュー「移住サイト」のリンク先にて、Uターンを含めた「移住者の声」を見ることができ、津山を知ってもらうだけでなく、実際に住んでもらうことに結びつけるための情報共有を行っています。また、アンケート調査も実施しており、会員の意見を含めたアンケート結果について、ホームページに掲載しております。今後も情報共有を図り、つやま珈琲倶楽部を通じた、つながりを深めていきたいと思っております。</p>
2	<p>・5歳児健康調査の実施の割合は増えているが、そのあとの方向性っていうのが、津山市に少しまだ足りない。もう少し心理士さんの人数とか、保護者のニーズにあった療育機関があれば良い。</p> <p>・健康調査が実施されたあと、園で保護者の方にお勧めするよりも、保健師と心理士が直接報告、保護者の方にお話をされると小学校行くまでに練習とか専門機関を利用する気持ちも固まってしまう。この計画には、結果みたいなものは掲げていないが、そこまで記入していただいていると色々な問題点がわかっていくんではないかと思いました。</p>	健康増進課	<p>・令和4年度に5歳児健康調査事業を実施した結果、何らかの発達支援が必要だと判断し、保育所等の職員と保護者と面談をした子ども100人のうち、療育機関等につながったのは71人でした。多少の待機期間はあるものの、お子さんの特性、保護者のニーズに応じた児童発達支援事業所や通級などをご紹介します。残りの29人は園で経過観察をすることになっています。</p> <p>・令和5年4月から、心理師等が保育所等を訪問し、発達に遅れや特性を持つ児が集団生活に適應していくための専門的なアドバイスを行う「保育所等訪問支援事業」が開始しました。この事業により通い慣れた保育所等で特性に応じた支援を受けることができると考えています。また、保育所等の保育士・教諭の支援力の向上も期待できます。令和5年7月末現在の実施状況は実人数4名（延11回）で、今後も訪問支援について増加する見込みとなっています。</p>
3	<p>・発達的な問題あると言われるとかなりショック受けられる方が多い。専門的な機関に行きにくいし、認めたくない気持ちがある方が多い。園の中で自然な形で、きめ細やかなサポートをしていただけることで、改善が望めるんだったらその方がより保護者の方の負担感は少ないと思う。先生方の負担が大きくなるので、先生方の人数の確保、勤務体制の問題にも力を入れていただくと、自然な形で負担感なく、いい方向に行くと思いますのでご検討願います。</p>	健康増進課 こども保育課	<p>【健康増進課】</p> <p>・発達に課題がある子どもの保護者から相談があった場合には、気持ちをくみ取りながら丁寧な対応をするようにしています。園とは別の場で練習が必要な場合には療育機関を紹介したり、園での支援で集団生活の適応が可能な場合は、巡回相談や保育所等訪問支援をお勧めするなど、子どもや保護者の状況やニーズに添った支援を行っています。</p> <p>【こども保育課】</p> <p>・支援が必要な子どもに関して、上記の「保育所等訪問支援事業」のほか、保育園に対する障害児加配の補助について、現在、津山市保育協議会とも協議をしながら、対象の拡充に向けて検討をしているところです。</p> <p>・また、保育士確保に関しては、美作大学に委託しての就職支援セミナーの開催や、関係機関と事業連携し実施の小規模面接会等の開催により、少数ではありますが潜在保育士の復帰や看護師資格の方が就職に繋がっています。</p>
4	<p>・地域づくり応援事業のことが書いてあるが、具体的にどんなことがされているのか。</p>	地域づくり推進室	<p>地域づくり応援事業は、津山市連合町内会支部単位で、支部内の様々な関係団体が主体的に参加する「地域運営組織」を設立し、福祉、防災、空き家、農地等の様々な課題を解決するための取組を持続的に支援するものです。</p> <p>本事業は第1ステージ3年間、第2ステージ3年間の支援となっており、第1ステージで自立に向けた地域振興計画を地域が作成し、第2ステージでは実際に持続可能な取組を地域と考え、実践していきます。</p> <p>地域課題の解決を進めたい地域の会議や行事等に参加して、地域の実情把握や相談等の対応を行いました。</p> <p>令和4年度は、第2ステージの取組を5地域が実施し、また組織設立に向けた支援を2地域に対して実施しました。各ステージ終了後も、各組織との関わりを持ちながら、必要に応じて支援を継続しています。</p> <p>（令和5年5月 大井東地区地域づくり協議会が設立）</p>
5	<p>・子供との触れ合いの場、子供が地域に関わる場として、その地域力の向上の中に子供の居場所みたいなところも入れていただいているとは思いますが、今後重要になってくると思う。</p> <p>・女性の方がふれあいサロンなどには、すごく行きやすいが、男性がなかなか参加しにくいという状況がある。その男性の方に役割を与えることが非常に重要だと。能力を発揮できる場があることで男性が少し参加しやすくなる、もしくは自主的にそういうのを発揮してくれる。その辺りも少し取り上げたらと思います。</p>	教育委員会 高齢介護課	<p>【教育委員会】</p> <p>・こどもの居場所と地域学校共同活動について、両輪の上にこの活動を行っていくべきであると言われてるのがコミュニティースクールになります。津山市ではそのコミュニティースクールに関して、令和6年度に、全小中学校においてコミュニティースクールの導入が完了する予定です。そういった計画を立てて、現在推進しているところ。コミュニティースクールになることで、例えば地域行事に子供が参加したり、実際、実施している公民館講座では、子供が講師役になったりしており、そのような形で活躍することで、子供の自己肯定感を育てていくようなことをやっている。今後、全校にコミュニティースクールを広げていく中で、こういった子供が活躍出来る場を広げていきたいと考えているところです。</p> <p>【高齢介護課】</p> <p>・農業を活用した介護予防事業として、男性高齢者を対象とした野菜づくり講座を実施。8名の参加者が、野菜づくりをとおして介護予防だけでなく、収穫した野菜をこども食堂に寄付するなど、社会貢献にも取り組みました。令和5年度も11名の方が参加しています。</p>

## 令和4年度津山市地域創生推進会議（社会環境分科会）で出された意見に対する回答

番号	主な意見	担当課	R4取組内容とその成果
	<p>・デジタル関係のところ82ページのマイナンバーカードの普及について触れられているが、今回のデジタル対策の中で、マイナンバーカードを何か絡めて進める予定があるのかどうか。</p>	みらいビジョン戦略室	<p>【みらいビジョン戦略室】</p> <p>・マイナンバーカードについて、本市では、住民票等の交付が、マイナンバーカードをお持ちの方については、コンビニ等で受けれる仕組みを作っています。（本年3月以降に、他自治体で他人の証明書が誤交付される事案が発生しましたが、利用していた（富士通（子会社）の）コンビニ交付システムの不具合によるものであり、他社システムを利用している本市では影響ありませんでした）</p> <p>今まで市役所にわざわざお見えいただいて、様々な申請をしていたことが、カードを利用すれば、不要になるとか、また、このカードによって様々なサービスをいろんな事業者と連携しながら進めたいと思っており検討しているところです。</p> <p>現在、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、イベント情報や市の情報など、その方にとって欲しい情報が届く「市民ポータルサイト」の構築を進めています。市民ポータルサイトを通じ、市の行政手続きの電子申請サービスもあわせて実施できるよう調整しており、令和6年2月の運用開始を目指して準備を進めています。</p> <p>この電子申請サービスは、マイナンバーカードの本人認証機能とも連携していますので、申請時に入力する項目が少なく済み、窓口の混雑解消など、市民の方にとってより便利な仕組みとなります。</p>
6	<p>・この78ページの方に子供たちが将来に向かって、いきいき学び、教育環境づくりというところで出ている指標ですが、学力の面が随分向上してきていて、成果が上がっていることは感じている。しかし、この学力の指標だけで子供たちの活躍度が図れるのか疑問に思っている。学力以外にもう少し指標を検討して、自らが何かをするというような力もどれくらい育っているのかといった指標もあった方がいいと思う。</p> <p>・不登校対策のところでの今回の校内に居場所づくりということで、新しく試みが始まっている。これまで学外の鶴山塾に行くことしかなかったのが、校内に居場所が別につくられる。より検討を重ねて先生方の労力のこともあるので、そういう意味でのコストパフォーマンスを考えながら、検討していただきたい。このような問題は、出てきてから手を入ると大変エネルギーがいる。1次支援、2次支援、3次支援という考え方があるが、第3次支援が必要になってくる子供たちの数字を減らしたい。ぜひ1次支援、2次支援に力を入れていただきたい。</p> <p>・特別支援教育の問題なんですけど、発達支援センターがあって、巡回の先生が来てくださったりしてとてもありがたい。しかし、その現場を持ってらっしゃる先生方の研修が十分に行き渡ってないってのが正直なところ現実としてある。個別支援計画、指導計画立ててくださるんですがうまく回っていない。っていうのが現状ですので、その辺りの工夫をよりできたらな考えています。</p>	教育委員会	<p>・学力の関係では、学力だけが良ければいいということはもちろんありません。適切な指標については、今後検討しなければいけないと考えています。津山市教育委員会では、第3期教育振興基本計画を作っており、この中で学力も含めて様々な指標を設定している。例えば、確かな学力の向上や主体的に学ぶ意欲の育成なども目標において指標を設定して施策を進めています。自主的に取り組むものは、特に非認知能力と言われてるところで、非常に数値化するのが難しい部分ではあるが、適切な目標を置いてしっかり進めていきたいと考えています。</p> <p>・不登校になった子供の居場所について、令和4年度から4つの中学校に新たな居場所ということを実施している。学校の教室に通うことが出来ないだけども、教室とは違う場所が子供の居場所となっています。不登校対策の肝というのは、すぐに学校や教室に復帰させるということではなくて、必ずしも、学校に復帰を前提としないが、いくつかの自分が学べる場所や選択肢を示すことだと思います。例えば、学校には来れないから鶴山塾に、そこから教室には、すぐには復帰できないが、学校には行けるということで、新たな居場所で、そこからまた教室に復帰する。そのような流れを作り、選択肢を作って、横の連携が出来ればと考えているところです。</p> <p>・特別支援の関係について、令和4年度から北小学校で特別支援教室のナビゲーターを配置して、各学校を巡回し各学校において研修のサポートをしています。各学校から非常にこのナビゲーターの効果が高いという評価も受けているところです。このナビゲーターが効果的に動いていくことで、津山市全体の特別支援教育を推進していきたいと考えます。</p>
7	<p>・学校での不登校支援は進んできた。現場は負担がなくなる専門家が配置できるシステムになれば良い。学び直し事業が今、どのような形で継続されているのかわかれば教えていただきたい。</p>	教育委員会	<p>・「まなびカフェ」では、不登校になって卒業後に進路が決まっていなかったりした人が、もう一度学べるような取組があります。卒業後の相談とか、進路が決まっていなかったり、サポートができる体制を取っています。「まなびカフェ」を通じて、学び直しのサポートを行い、就業に向けた支援なども各機関しっかりと連携しながら、これからも継続していきたいと考えます。</p> <p>令和4年度も広報つやま及び市のホームページで取組の周知や募集を行っており、4名（10代）の利用者がありました。そのうち、就業につながった方1名、進学（高校・大学）した方2名、継続してサポートしている方1名となっています。</p>
8	<p>・資料3-2の6ページの「移住定住の促進」で、コロナの影響がある中で、赤三角がこのKPI事業の中で並んでいるが、一方で全体の基本方針の方は○となっております。この辺を見るとオンラインでの活用とかそういったことも書かれているが、具体的にこの辺の反響をどのようにとらえられているか。</p> <p>・その反響をどういうふうにとらえて、PDCAサイクルをまわしていくのか。そのような考えがあれば教えていただきたい。この基本方針に限らないことかもしれませんが、今回も実績が上がってきて、それをどのようにまわしていくかという中でのデジタル活用ということに関しても、考えがあれば教えて欲しい。</p>	仕事・移住支援室	<p>・令和2年度から4年度にかけては、コロナ禍のため対面での移住相談会や体験ツアーが制限される中であっても、早期にオンラインとリアルを組み合わせた手法を取り入れるなどして、可能な限りイベントを継続実施してきました。</p> <p>昨年度末頃から移住相談会や体験ツアーに直接足を運ぶ方が増えてきていることから、今後は積極的にリアルでの開催に戻しつつ、オンライン等のデジタル技術の利点を活かしながら事業に取り組むなど、社会の変化や移住希望者等のニーズに合わせ、柔軟に対応していきたいと考えています。</p>